

令和5年度補正予算に係る再評価結果一覧

【公共事業関係費】

【河川事業】
（直轄事業等）

事業名 事業主体	該当 基準	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の進捗の見込み、コスト縮減等)	対応 方針	担当課 (担当課長名)		
			貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C(億円)					B/C	
			便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳						
宮川総合水系環境 整備事業 中部地方整備局	その他	6.7	13	<p>【内訳】 水辺整備の効果による便益：13億円</p> <p>【主な根拠】 (水辺整備) ・玉城町かわまちづくり 支払意志額：246円/月/世帯 受益世帯数：29,308世帯</p>	8.5	<p>【内訳】 建設費：7.3億円 維持管理費：1.2億円</p>	1.5	<p>・管理用通路や坂路、親水護岸等の整備により、水辺へのアクセスが向上し、利用ニーズが拡大している「たまき水辺の楽校」の更なる利用活性化が期待される。</p> <p>・今後は、キャンプやイベントの場として、玉城町の観光振興に寄与することが期待される。</p> <p>・水辺整備箇所がサイクリングコースの一部として位置付けられることで、宮川の沿川に分布する歴史資源等との回遊を促進し、まちの活性化に寄与することが期待される。</p> <p>・水辺整備分野の内容に追加が生じたことから再評価を実施。</p> <p>【投資効果等の事業の必要性】 ・玉城町かわまちづくり実施地区は、河川空間管理計画で自然利用ゾーンとして位置付けられ、「人と河川の豊かなふれあいの場」としての利用が求められている。</p> <p>・令和2年度に策定された『玉城町観光振興計画』では、利用ニーズが拡大している水辺の楽校を活用していくことが位置付けられている。</p> <p>・玉城町かわまちづくりにおいては、利用しやすい河川空間の整備により、地域活性化を図る必要がある。</p> <p>【事業の進捗の見込み】 ・令和元年以降は、せせらぎ水路に生息する魚類等について、継続してモニタリング調査を行っており、魚類の生息が確認されている。令和4年のせせらぎ水路改良後、魚類の確認個体数は増加傾向にある。</p> <p>・かわまちづくり計画に基づく整備の実現に向けて、引き続き地域住民や関係機関と連携し、事業の進捗を図る。</p> <p>【コスト縮減等】 ・残土処理地を変更し、運搬距離を短縮することによりコスト縮減を図っている。</p> <p>・せせらぎ水路改良については、流用材の利用等によりコスト縮減を図っている。</p> <p>・盛土材料は、現地発生土を利用することによりコスト縮減が図られるよう努める。</p>	継続	水管理・国土保全局 河川環境課 (課長 豊口 佳之)	

<p>淀川総合水系環境整備事業 近畿地方整備局</p>	<p>その他</p>	<p>354</p>	<p>3,035</p> <p>【内訳】 水辺整備の効果による便益：702億円 自然再生の効果による便益：2,333億円</p> <p>【主な根拠】 (水辺整備) ・淀川河川敷十三エリアかわまちづくり 支払意思額：249円/月/世帯 受益世帯数：376,872世帯 ・淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり 支払意思額：274円/月/世帯 受益世帯数：557,548世帯 ・八幡市かわまちづくり 支払意思額：365円/月/世帯 受益世帯数：81,237世帯 ・伏見地区かわまちづくり 支払意思額：277円/月/世帯 受益世帯数：118,408世帯 ・宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり 支払意思額：301円/月/世帯 受益世帯数：113,842世帯 ・和束町木津川かわまちづくり 支払意思額：235円/月/世帯 受益世帯数：28,191世帯 ・名張かわまちづくり 支払意思額：167円/月/世帯 受益世帯数：27,015世帯 (自然再生) ・魚がのほりやすい川づくり 支払意思額：260円/月/世帯 受益世帯数：1,169,239世帯 ・淀川ワンド再生 支払意思額：316円/月/世帯 受益世帯数：584,107世帯 ・汽水域干潟整備 支払意思額：428円/月/世帯 受益世帯数：284,014世帯 ・木津川たまり再生 支払意思額：242円/月/世帯 受益世帯数：122,631世帯 ・鶴殿ヨシ原保全 支払意思額：322円/月/世帯 受益世帯数：215,134世帯 ・野洲川自然再生 支払意思額：233円/月/世帯 受益世帯数：203,423世帯</p>	<p>424</p>	<p>【内訳】 建設費：422億円 維持管理費：1.6億円</p>	<p>7.2</p> <p>・淀川河川敷十三エリアかわまちづくりについては、堤防上面の基盤整備を実施することで、民間事業者による賑わい拠点施設の整備を促進する。 ・淀川河川敷枚方エリアかわまちづくりについては、多自然池の再整備等により、水辺のアクティビティーや体験学習の機会等を創出する。 ・八幡市かわまちづくりについては、親水護岸の整備により体験学習の機会を創出する。 ・伏見地区かわまちづくりについては、高水敷等の整備により水辺空間を活かしたイベントの実施を後押しする。 ・宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくりについては、親水護岸等の整備によりEポート等の水上アクティビティの機会等を創出する。 ・和束町木津川かわまちづくりについては、親水護岸の整備により、水辺のアクティビティーを推進する。 ・名張かわまちづくりについては、歴史的な街並みと一体的な水辺空間の整備により、観光振興が期待できる。 ・魚がのほりやすい川づくり事業については、芥川等の流入支川の本支川間の連続性を確保することで、淀川管内における魚類等の移動環境の改善が期待できる。 ・淀川ワンド再生により、令和4年度に平成25年に放流を行った個体の第10世代の生息を確認している。 ・鶴殿ヨシ原保全により、淀川原風景としての広大なヨシ原が復元される。 ・野洲川自然再生については、水制工設置や河道掘削等により、瀬・淵のある流れの再生および多様な生態系の保全が期待できる。</p>	<p>・水辺整備分野の内容に追加が生じたことから再評価を実施。</p> <p>【投資効果等の事業の必要性】 ・2025年大阪・関西万博を契機として、舟運を核とした淀川沿川地域のさらなる賑わいづくりのため、定期観光船の就航や沿川地域の資源を活用した観光コンテンツの商品化、これを支えるハード整備等が必要である。</p> <p>【事業の進捗の見込み】 ・水辺整備については、令和14年度完成を目指して事業を推進しており、進捗率は全体の38.8%になっている。 ・自然再生については、令和25年度完成を目指して事業を推進しており、進捗率は全体の45.9%になっている。</p> <p>【コスト縮減等】 ・改修・維持工事との連携（河道掘削工事に伴う瀬・淵の再生など）等によるコスト縮減について検討する。 ・淀川環境委員会等における学識者の意見を踏まえ整備方法の改善に取組むほか、技術の進展に伴う新技術・新工法の採用、発生土の他現場流用調整などによってコスト縮減に努める。</p>	<p>継続</p>	<p>水管理・国土保全局 河川環境課 (課長 豊口 佳之)</p>
---------------------------------	------------	------------	---	------------	---	---	---	-----------	---